

全国学力・学習状況調査、みえスタディチェックの結果から①

一学期に実施した全国学力・学習状況調査（6年生対象）、みえスタディチェック（4・5年生対象）の結果をまとめました。この調査で測れるのは子どもの学力の一部であり、学校の教育活動の一側面ではありますが、結果をもとに学校と家庭が協力して、教育活動や児童の学習環境の改善につなげていきたいと考えています。

1. 全国学力・学習状況調査結果から

【国語】 本校の平均正答率は、全国平均を上回りました

- ・無解答率は低く（14問中10問が無解答率0%）、最後までやりきろうとする力があり、意欲的に取り組むことができました。
- ・知識及び技能に関する問題は約75%の子どもが正解しており、全国平均を5ポイント上回っています。
- ・問題形式で選択式、短答式の平均正答率が全国平均よりもそれぞれ約5ポイント、約7ポイント上回っています。
- ・答えを文章で書く記述問題では、条件（60字以上100字以内、指定した文章から言葉や文を取り上げながら、自分の考えと理由を書く）に合わせて書くことに弱さがみられ、全国平均より約4ポイント正答率が低いです。

【算数】 本校の平均正答率は、全国平均を上回りました

- ・約7割以上の子どもが正答している問題数が10問（全16問中）あり、知識技能が身につけている子どもが多いと言えます。しかし、無解答率0%の問題が6問（全16問中）であることや、正答できた問題が8問以下の子どもが26.4%いることなどから、算数を苦手とする子どもたちが一定数いるという課題が見られます。
- ・正答率が低い問題は、これまでも課題とされている図形の性質を考えて答えを導く問題（正答率35.8%）と、数や言葉を用いて理由を記述する問題（正答率22.6%）でした。また、割合の問題（百分率）についても苦手とする子どもが多いです。
- ・国語でもそうですが、問題文を読み取る力、つまり一人で長い問題文を読み解き、問われていることを理解し、算数的用語を使ってわかりやすく答えようとすることに弱さがみられます。

【児童質問紙】

- ・朝起きる時刻がいつも同じであったり朝食をきちんと毎朝食べていたりする子どもがほとんどです。ただ、寝る時刻が日によって違う子どもが全国平均に比べても多いです。
- ・自分にはよいところがあると思う子ども（肯定的回答90.8%）が多いです。
- ・「人が困っている時は進んで助ける」（肯定的回答92.6%）「人の役に立つ人間になりたい」（肯定的回答98.1%）「地域や社会をよくするために何かしてみたい」（肯定的回答87%）と思う子どもが多いです。
- ・全員が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと肯定的回答しています。
- ・10人ほどの子どもが、「学校が楽しい」「友達関係に満足している」に否定的な回答をしています。
- ・新聞を読んでいる子どもが10人ほどです。
- ・算数の勉強が好きと肯定的回答する子どもが国語、理科、英語に比べて少なく、否定的回答が半分を超えます。

2 4年みえスタディチェック結果から

【国語】 本校の平均正答率は市と同等でした

- ・文章の構成（主語述語）や指示する語句の役割に関する正答率は高いですが、記述の問題は正答率が低く無解答が、19.0%でした。
- ・問題文を読み取る力や、記述問題での条件に合わせて書くことに課題が見られます。

【算数】 本校の平均正答率は市よりやや低いです

- ・「数と計算」では、繰り下がりのある引き算、分数、整数のわり算の意味について市平均を下回りました。
- ・「データ活用」では、グラフの読み取りや記述問題が市平均を下回りました。

【学習や生活等に関する質問からみられる特徴】

- ・家で自分で計画を立てて勉強をする主体性はよく身につけている子が多いです。
- ・ニュースや新聞の興味は低いです。
- ・「相手のことを尊重し、相手の気持ちを理解しながらやり取りすることができる」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人が困っている時は進んで助ける」といった「協力すること」に関しては、全体的に意識が高いです。
- ・将来の夢や目標を持っており、それに向かって学習方法や生活習慣の改善など努力することができる子が多いです。
- ・テレビゲームの1日使用時間が1～2時間の児童が最も正答率が高いですが、使用時間が4時間以上の児童が20%近くいます。

3 5年みえスタディチェック結果から

【国語】 本校の平均正答率は市と同等でした

- ・「知識および技能」における「ローマ字」「常体と敬体」は正答率が高いです。
- ・「登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりをとらえること」などの物語文の読み取りは市の平均正答率より高くなっています。
- ・「主語や述語の関係」「接続語を使って文章を書く」ことや、「条件を取り入れて自分の考えをまとめる」ことなど記述することに、課題があります。

【算数】 本校の平均正答率は市よりやや低いです

- ・「小数のわり算や分数の意味の理解」「時間を求める」「図形の面積を求める」「グラフや二次元表から読み取る」ことに課題が見られます。
- ・角の大きさについては、 180° までの角の大きさは9割が正答できていますが、 180° 以上の角の大きさについては半分ほどしか正答できていません。

【理科】 本校の平均正答率は市と同等でした

- ・実験器具の使い方については、気温計やはかりの読み取りはおおむね理解できていると言えますが、方位磁針の操作方法や検流計の使い方については再度学習をしていく必要があります。
- ・「電気のはたらき」（乾電池を使って回路を作る）についての問題の正答率が低いです。
- ・記述問題では、正答率が低く、無解答率の方が高くなっています。

【学習や生活等に関する質問】

- ・「人が困っている時は、進んで助けている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「周りとのかかわりの中で互いの強みを生かし、弱みを補い合いながら、よりよくすることができる」といった「協力すること」に対しての意識は高いです。
- ・将来の夢や目標をもち、それに向かって学習方法の工夫や生活習慣の改善に取り組んでいる子が多いです。
- ・伝え合うことについて、友達に分かりやすく伝えようとすることができ、発表する機会には自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している子が多いです。
- ・「学校に行くのは楽しいと思うか」について、肯定的な回答は70%近くありますが、否定的な回答が30%ほどあります。
- ・国語、算数について、「授業はわかる」と回答している子がほとんどですが、「国語、算数の勉強が好きか」に対して、約半数の子が否定的な回答をしています。

全国学力・学習状況調査、みえスタディチェックの結果から②

4 学校での取組

- ・問題を読み取り問われていることを読み取る力について、読解力が身につく取組や「書くこと」に関する力をつける取組を、4・5・6年だけでなく1年生から取り組んでいきます。
- ・児童の自己肯定感を高めるために、自分を見つめる場や機会を設定するなどの自己理解や自己受容の取り組みを進めるとともに、様々な体験を通して成就感や達成感を味わわせたり、他者から認められたりするような活動を取り入れています。6年生では、「レジリエンス教育」にも取り組んでいます。
- ・自ら学ぶ力や、自分の知識を活用する力をつけるために、自主学習（桜台小「プラスワン」）に取り組んでいます。取組の工夫を校内掲示して、子どもたちが自主学習に生かしていけるようにしています。
- ・児童用タブレット端末の「ミライシード」などを使って復習をさせていきます。また、その進捗状況を把握して助言や支援をしていきます。
- ・Google クラウドームを使うなどタブレット端末で行う家庭学習の充実を今後も図ります。

5 家庭での取組のお願い

三重県教育委員会リーフレットより

学習習慣等を身につけるために

家庭学習を習慣化することで、がんばりぬく力や授業への集中力が高まります。また、いろいろな学習分野への興味・関心も高まります。

子どもたちに関わり、励ましながら、学びと育ちを支えていきましょう。

子どもをほめる機会を！

- ・子どものやろうとする意欲や取り組んでいる過程のがんばりを認め、励まし、ほめていきましょう。
- ・「なぜかな？」「どうしてそうなるのかな？」などの声かけが、疑問に思ったことを調べる習慣につながります。



一緒にルールづくりを！

- ・家庭での学習時間を確保しましょう。学習時間にはテレビを消すなどの環境づくりも大切です。
- ・子どもたちが、ゲームやスマホ、インターネットを適切に使用できるよう、お子さんと話し合い、使用時間などの家庭でのルールづくりに取り組んでいきましょう。



早ね早おき朝ごはん

- ・毎日同じぐらいの時刻に起床・就寝するなど、規則的な生活習慣を身に付けることが大切です。
- ・「おはよう」から始まり「いただきます」「行ってきます」と、一日を気持ちよくスタートさせましょう。



子どもと本をつなごう！

- ・手の届くところに本を置くなどの工夫をしたり、読書の時間を設け子どもと一緒に本を読んだり、本について話し合ったりするなど、「家読(うちどく)*」に取り組みましょう。

*「家庭読書」の略語で「家庭ふれあい読書」を意味し、家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めることを目的にした読書活動です。

